えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会　報　第 22 号	２００３年5月２３日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠

1.　活動報告（事務局　記）

－　5月４日（日）作業：今日は朝から良い天気、メンバーの皆でビオトープの草刈とみぞ掃除を行いました。

－　5月１７日（土）作業：駐車場の草刈、湿地帯のセイタカアワダチ草の除去をしました。

－　5月１７日（土）里山自然観察隊：樹木の観察と名札架け　隊員 15 名　保護者 6 名　指導員　１１名。

－　5月１８日（日）宇部市のファミリーサポートセンターの地域交流会があり、青空の中、子供たちの楽しそうな笑い声と供に、遊ロードやビオトープで色々な発見や観察をしました。昼食には焼きそばまでご馳走になり、大変和やかな時間を送りました。会からは、原田さん、北村さん、西原さんが参加されました。（参加人数約１００人）

－　5月１８日（日）宇部フロンティア大学のビオトープ研究会の方１１名がビオトープと遊ロードにて植物の勉強会をされました。つくる会からは潮村、田村、美濃和、西原会員も参加されています。

2.　今後の予定（事務局　記）

◎　見学者

－　7月 24 日(木)　藤山婦人カルチャーセンタにて　里山ビオトープについて講演　講師未定
　　同　　下松市農業委員会　松本さん他ご一行　　案内役　原田マ他

◎　行事

－　6月１日　里山ビオトープ二俣瀬、　昭和山遊ロード二俣瀬　整備

－　6月７日　湿地帯の植生調査

－　6月１４日　田植え

－　6月２１日　里山自然観察隊

－　7月始め　　中電宇部電力事務所によるボランテア草刈有り

3.　ビオトープ関連（ビオトープ周辺で観察される植物）　　（車地　藤村　武昭　記　）

－　その３　春蘭

一般に低地に自生している野生ランで、「ジジとバア」等、地方によりその土地の呼び名があるようで親しみの湧く植物である庭のある家なら根絞めに、石の縁に多く植えられている。

３～４月ごろ一茎一華性で花弁は淡緑色、舌弁は白く赤い斑点をつける。　日陰では葉長は長くなり４０cm を越すものもあるやや日当たりの良い所では、締まった木姿になり着花率もよい様だ。

東屋の北側、アカメガシの根元の株も今年も花を見せてくれた。花、葉等に変異の有るものは古典園芸植物として、古くから珍重されている。

4.　ビオトープ関連　(連載ビオトープ近辺の案内)

－　“ 珍説フタマタセ　その八、与助の首 ”　　（車地　吉富　壮介　記）

国道２号線、車地から山中の方へ４００M、道路は左へカーブする。その手前左側の山すそ辺りを「与助の首」という。　天保の一揆というから江戸時代か。棯小野の与助という百姓、一揆を指揮して「世間を騒がせた」科（かど）で捕えられ打首、その首をあそこへさらされた。地名はあるが碑も石もない。虎は死して皮を残し、与助は死して地名を残した。　そこで腹がたつ。一揆はご法度、それを犯したから打首、そこまでは分かる。お上のすることに口出しはしないが、さらし首を、なんで車地へ置いたか、だ。一揆は一人じゃできない。一緒に行動した者への見せしめに、一罰百戒を、車地へ示したかったのか。それとも車地がいちばん「おとなしかった」のか。とにかく当時は、一揆でもせにゃやれん程民百姓は困っていたにちがいない。それが貧困か窮状は別にして、打首を覚悟してまで一揆せざるを得なかったのじゃないか。打首を見て震えあがった車地は、「我関せず」に徹し、おかげで今日まで地名のみ、碑も石もない、ということになったのじゃないか。　ひょっとすると今日の平和と繁栄は、与助がもたらしたのかもしれんし、この一揆こそ「天保の真珠湾攻撃」だったかもしれない。　お百姓の為に、とお役人を斬って山に篭った“ 国定忠治 ” これも大罪人。果ては磔（はりつけ）獄門（ごくもん）でも、地元の民百姓はお宮を建て、碑を立て、樽太鼓叩いて、派手に業績を称えている。国定忠治とは比ぶべきもないか「与助」、哀れというも、なかなか情けない地名ではある。せめて苔むした石の一つもあれば…。

５．会員の声

○　*メダカ取り　母も興じて　腕まくり　網貸してよと　子を拝む*

毎年気温が上昇すると、網を手にした家族連れが増える、大きな昆虫用や魚用。中には水槽用の手のひらサイズを持つ人もいるが、皆さん喜々としている。昨年の夏、メダカを取っている母親と園児に出合った。母がメダカの位置をここあそこと知らせて、男の子に取らせている。真剣に網を入れるが逃げられる。母も段々イライラする気配。そのうち「網貸してえー。」「いやよおー。」「貸してったら！」「いやだ！」母親も本気で腕を捲り上げている。「ねえ、網貸してえー。」と手を合わせて子に懇願している。子も諦めて親に貸し、やっとメダカを掬った。「ほら、取れたよ、見て。」「やったあ、ママ上手。」と子が拍手。ほほえましい風景であった。　別の日に、手のひらサイズの網を手にした祖母・母親・女の子と出合ったが、一匹も取れないと嘆いていた。それでは私がと申し出たが網が小さい。これで湿地帯にいるのを掬うのである。何回か失敗したがやっと取れた。今度は私が３人から拍手をもらったのである。１０匹位をバケツに入れ、お礼を言われながら別れたのであった。　**（林　弘之　記）**

６．来訪者の声　（東屋のノートより一部抜粋）

５月４日　今日始めて来ました　地元の皆様のおかげでよく整備されていて感激しました。屋根つきの休憩所がもう一箇所にあったらと思います。無理でしょうか？

自然に触れて孫達も嬉しそうでした。有難う御座いました。又来たいと思います。友達にも話して、ぜひ来るようにいいます。

７．会よりの連絡事項

会員のみなさまへ

（１）　ビオトープ内のメダカ等を含む動植物の持ち帰りの禁止を会員多数の意見で決まりましたので、見学予定者や見学者からの問い合わせの折はその旨お伝えください。又近日中に看板を作って掲示します。（多量に持ちかえる人が増えたので）

（２）　昭和山遊ロードの散策をご遠慮いただくことになりました。期間は J―フォン鉄塔の鳥の雛が巣立つまで（約２ヶ月）

脱会者のご紹介

下関市在住の中島　謙会員　昨年末より病気療養のため奥様より脱会の依頼がありました。

小羽山の野田康司会員も脱会の依頼がありました。　お二人とも立上時大変ご苦労をおかけしました。

入会者のご紹介

小野田の美濃和　信孝さんが転任を記に入会されました。既に作業のときご紹介しましたが改めて御報告します。

防府市の石田正明さん、小郡町の田中和男さん、2名の方が健康福祉センター（元勤務）の藤井会員ご紹介で入会されました。

８．編集後記

会報も２２号まで何とか継続発行できている。ヒュッテ「ランプの宿」機関紙を毎月頂き、又我々の会報もお礼にと送付している。　あちらさんの機関紙はしだいしだい充実し写真入で立派なものになっている。我々ももっと頑張らなくっちゃ！と思う今日この頃である。

皆様の寄稿をお待ちしています。　　**（原田　満洲夫　記）**